

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義

グローバル時代の トップランナーI・II・III

開設区分	総合科目 I (大学院共通科目としても開設)
開設学期・曜日・時間	1・2・3 学期 隔週土曜日午後 2 コマ集中 (13:30 ~ 16:30)
科目責任者	石田 東生 (教育企画室長 システム情報工学研究科・教授) 道谷 里英 (キャリア支援室・准教授) 藤井さやか (システム情報工学研究科・講師)

本科目は、社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project-Industry Council : JAPIC) と本学との連携協定に基づき、平成 23 年度から新たに開設される科目です。産業界と連携した科目で、これほどの規模の科目は他大学にも類をみない、本学が全国に先駆けて初めて実施する科目です。



JAPIC とは

社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project-Industry Council : JAPIC) は、1979 年に産業界の複合組織として設立されました。以来、産官学民の交流を通じ、民間諸産業の技術、経験および活力を結集した業際協力の協力により、国家的諸課題の解決に寄与すること (日本創生) を理念として活動しています。そして、豊かさを実感できる国民生活を実現すべく、国土の有効利用、各種社会資本の充実に取り組んできました。現在 30 業種約 180 社の企業、地方自治体、団体、NPO 等から構成され、年間延べ 1 万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクト企画、2. 政策提言とその実現に向けた活動、3. 広報・PR の 3 つの活動を行っています。



JAPIC 会長
三村明夫 Mimura Akio
新日本製鐵 (株) 代表取締役会長
中央教育審議会会長

開設目的・開設趣旨

世界は冷戦終結以降、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、地球規模での大交流・大競争時代にシフトしてきました。日本経済はこれまで国内の需要に支えられ、世界第 2 位の経済国に成長しましたが、少子高齢化や財政赤字などの難題が顕在化し、伸び悩みが顕著となってきました。縮小する内需建て直しと同時に、日本は積極的に国を開き、世界経済の拡大を自らの成長エネルギーとすべき時です。こうしたグローバル経済で活躍できる次世代担い手としての「グローバル人材」の育成は、喫緊の課題となっています。グローバル化を日々体験している産業界・官界のトップリーダーが講師として、近い将来ビジネス世界に入る世代に、「社会基礎力」と言われる必要な情報、知識や心構えなどについて連続リレー講義を行います。

学生に期待するもの

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か」、「何を身に付ければよいか」、「グローバルな活動」について理解し、大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。

世界に挑む産業界・官界 トップリーダーによる 連続リレー講義

(平成 23 年度)



1 学期 グローバル時代のトップランナー I

◆ 日本の課題と戦略

講義 日程	講師名	所 属	講義題目	講義概要	
4 月 16 日	(1)高敷 裕三	JAPIC 専務理事・事務局長	産・官界リーダーによる講義 の意味・意義(導入講義)、 グローバル時代に為すべき こと	(1)当該連続リレー講義が開設されるに至った経緯、講義 の意味・意義と狙い、一学期講師陣と概要紹介、この講 義で学んで欲しいこと。	
	(2)進藤 秀夫	経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進課長		(2)グローバル時代のトップランナーであるための国、 経済界、次世代リーダーの役割などを概説し、共に考 える。	
	②	片岡 隆一	内閣府 政策統括官 (経済財政運営担当)付 企画官(総括担当)	日本経済・財政の将来展望	アジア他の新興国が勃興する中で、急速な少子高齢化に 苦しむ日本経済の現状を認識し、将来の展望を考える。
4 月 23 日	③	田邊 弘幸	双日(株)顧問	米国から見た日本と世界	歴史の転換点に立った今、米国・政治経済の変化は世界 に如何なる影響を与え始めたか? その中で、日本の存在 感と役割は?
	④	河野龍太郎	BNP パリバ証券会社 経済調査本部長 チーフエコノミスト	グローバル化と 日本経済	今や世界経済と国際金融市場を語ることなく日本経済は 語れない。グローバル経済・金融市場の潮流を解説する。
5 月 14 日	⑤	伊藤 禎則	経済産業省 経済産業政策局 政策企画官	経済政策の動向と 「新成長戦略」	世界は大競争時代に突入した。今後、日本は何で稼ぎ、 雇用を確保していくか。政府の「新成長戦略」の策定プロ セスを学び、実行について考察する。
	⑥	瀬口 清之	(財)キャノングローバル 戦略研究所 研究主幹	日本と中国の協調発展	日本は中国の市場を必要とし、中国は日本の技術を必要 とする。中国経済の構造変化を踏まえて将来の日中経済 関係を考える。
6 月 11 日	⑦	成田 高一	JAPIC 常務理事	国際競争力指標と 日本の経済力	地球規模での新興国を含めた国家間競争時代における 「国際競争力とは何か?」を考え、データや係数によ り日本の国際競争力を計測すると同時に、日本経済の強 み・弱みを分析し、我が国の取るべき戦略を考察する。
	⑧	本多 均	(株)三菱総合研究所 常務執行役員	次世代経済・社会システム	次世代(20~30年後)を展望し、わが国が抱える問題 とあるべき姿に向けて取組むべき諸課題について紹介 する。
6 月 18 日	⑨	島崎 豊	丸紅(株) 広報部副部長	時代の流れに対応してきた 総合商社の変遷	その時々々の経済・経営環境に合わせて変遷してきた総合 商社のビジネスモデルを、解説する。
	⑩	岩田真二郎	(株)日立製作所 執行役常務	バリューチェーンと 経営インフラのグローバル化	企業において、ビジネスのグローバル化を進めるに当り、 事業バリューチェーン及び経営プラットフォームの観点か ら、何が必要なのかについて検討、基本的要件を考察す る。同時に、日本~米国のカルチャーギャップを分析し、 ビジネスへの影響についても議論する。

2 学期 グローバル時代のトップランナーⅡ

◆次世代を担うグローバル人材とは

講義日程	講師名	所属	講義題目	講義概要
9月3日	① (1)高藪 裕三	JAPIC 専務理事・事務局長	産・官界リーダーによる講義の意味・意義(導入講義)、グローバルビジネス・業務・人材とは	(1)当該連続リレー講義の意味・意義と狙い、二学期講師陣と概要紹介、この講義で学んで欲しいこと。企業が求めるグローバル人材について、学期全体の導入として概説。
	(2)伊与部恒雄	三菱商事(株)代表 取締役常務執行役員 コーポレート担当役員		(2)国内外でのビジネス体験をもとに、グローバル化動向の実感、仕事の醍醐味や達成感、グローバル人材に求められる基本資質、適応力等について論じる。
	② 佐藤 博恒	新日本製鐵(株) 人事・労政部長	企業が求める これからの人材像	グローバル化、大競争下で求められる人材像は？ マニュアルや就活情報に左右されない本質的なものとは？
9月17日	③ 山崎 亜也	住友商事(株)理事 資源・化学品事業部門 長付	世界のパラダイム転換と日本	グローバル化の意味、金融危機と中国の抬頭がもたらす世界の変容、その中での日本経済・企業の今後のあり方などを論じる。
	④ 小池 英夫	日本放送協会 テレビニュース部 CP	日本の政治の現状と 今後への期待	日本の政治の現状について、これまで取材してきた具体的な事例をもとに解説していく。その上で、今後、どのような点が期待できるのか、期待すべきなのか、議論を行いながら考えていく。
10月1日	⑤ 島崎 豊	丸紅(株) 広報部副部長	総合商社が求める グローバル人材	世界各地で展開する総合商社ビジネスに求められる人材と、その育成方針について語る。
	⑥ 木寺 昌人	外務省 官房長	日本・日本国民のために 世界で働く	我が国外交の現場体験から、グローバル化の流れの実感とグローバルな仕事の魅力、醍醐味などを紹介、学生への期待を語る。
10月29日	⑦ 篠田 信比古	キヤノン(株) 総合 R&D 本部 上席担当部長 顧問	企業技術者にとっての グローバル化	グローバル企業活動の中には先端技術、特許、国際標準規格等の攻防がある。競争的視点から事例を考察する。
	⑧ 熊谷 文男	中外製薬(株) 顧問	研究開発とグローバル人材	研究開発及びライフサイクルマネジメントとそれに関わるグローバル人材について、製薬企業をモデルに論じる。
11月12日	⑨ 藤原 章夫	文部科学省 高等教育局 大学振興課長	グローバル化に対応した 高等教育行政のあり方	次代を担うグローバル・リーダー育成のための世界的な拠点形成や教育システム改革の方向性について論ずる。
	⑩ 岩田 眞二郎	(株)日立製作所 執行役常務	グローバル競争時代に 必要とされる意識と行動	グローバル競争時代の企業は、時間・空間・文化の壁を越えて、異なる背景を持った人々を率い、経営目標に向け組織化し、結果を出せる人材を必要としている。この様な人材には、リーダー又は個人として何が必要とされるかを考察し、グローバル化時代を生き抜く為の人材像を議論する。



3 学期 グローバル時代のトップランナーⅢ

◆ グローバルプロジェクトで日本が目指すもの

講義 日程	講師名	所 属	講義題目	講義概要
12 月 3 日	① (1) 高敷 裕三	JAPIC 専務理事・事務局長	産・官界リーダーによる 講義の意味・意義（導入講 義）、30年後の国家ビジョン	(1) 当該連続リレー講義の意味・意義と狙い、三学期講 師陣と概要紹介、この講義で学んで欲しいこと。
	(2) 高木 佳子	JAPIC 主任研究員 / 竹中工務店(株)主任		(2) 30年後の世界を想像し、様々な仮説や歴史検証など に基づき、我が国の30年後のガバナンス、人口問題、 経済、安全保障などのあるべき姿を概説し、共に考える。
	② 伊藤 禎則	経済産業省 経済産業政策局 政策企画官	世界に売り込み！ インフラ輸出とクールジャパン	原子力やスマートシティ等、世界で巨大プロジェクトが胎 動している。日本の「強み」を活かして世界市場を獲りに 行く。成功・失敗の具体例に即しつつ、日本の戦略を考 察する。
12 月 17 日	③ 渡辺 善之	(株)メタルワン 経営企画部経営戦略 ユニットリーダー	資源・エネルギー問題の現状 と将来戦略	我が国の資源エネルギーの現状と資源獲得に向けた世界 の動きや、日本近海における海底資源の可能性等につい て、国家戦略とグローバルビジネスの視点から概説する。
	④ (1) 浅井 信司	JAPIC 上席主任研究員 / 新日鉄エンジニアリング (株)部長	第一次産業のイノベーション	日本の農林水産業は戦後他の産業分野から取り残され、 就業人口の減少・高齢化・所得減少が深刻な問題となっ ている。これら第一次産業再生のために需要サイドの視点 に立ち持続可能な産業として必要な規制緩和・技術革新 といった解決策を考察する。
(2) 末松 広行	林野庁 林政部長			
1 月 21 日	⑤ 伊藤 和央	WAO 研究所代表	大交流時代における 日本の物流戦略	四面環海の日本にとって海、空を介した物流戦略が不 可欠。物流面での取り組み、今後の課題について解説 する。
	⑥ 森 正樹	JAPIC 主任研究員 / 鹿島建設(株)課長	PPPによる本格ハブ空港 (成田・羽田一体化)	公共サービス部門における公共と民間の新たな役割分担 手法である「PPP (Public Private Partnership)」の基 本概念、課題、展望を概説。日本における PPP の事例と して、羽田空港・成田空港の連携強化、首都圏国際ハブ 空港のあり方等について解説する。
2 月 4 日	⑦ (1) 山本 和彦	森ビル(株) 取締役副社長	グローバルな都市間競争を勝 ち抜くための地域戦略と地域 基幹重点プロジェクトの役割	急成長するアジア都市圏の動向などを踏まえ、グローバ ルな都市間競争の重要性と我が国首都圏が担う役割、ア クアラインなどの地域基幹重点プロジェクトの政策決定や プロジェクト形成について考察する。
	(2) 成田 高一	JAPIC 常務理事		
2 月 18 日	⑧ 石川 貴之	JAPIC 主任研究員 / (株)日建設計総合研究所 理事 上席研究員	未来型環境都市	地球規模での人口爆発と都市化の進展の中、都市の低 炭素化は地球温暖化対応の必須条件。日本が培った様々 な都市レベルでの省エネ技術の最先端事例を交えて概説 する。
	⑨ (1) 永野 真紀	JAPIC 研究員 / (株)日立製作所 主任	グローバルビジネスとは ～我が国産業界の取組み～	新興国が参入し、世界大競争時代に突入した現在のグ ローバルビジネスとは何かを考え、日本の産業界の現状 と今後の取り組みについて概説する。
(2) 吉村 隆	ゴールドマン・サックス証券(株) マネージングディレクター コンプライアンス部門統括			
2 月 18 日	⑩ 島崎 豊	丸紅(株) 広報部副部長	総合商社手がける 海外インフラビジネス	以前から総合商社が手掛けている「インフラ輸出」につい て、電力や水ビジネスを例示しながら、わかりやすく解説 する。